

カナダ西部の 果樹園芸を見て

北海道大学農学部助教授

八鍬利郎

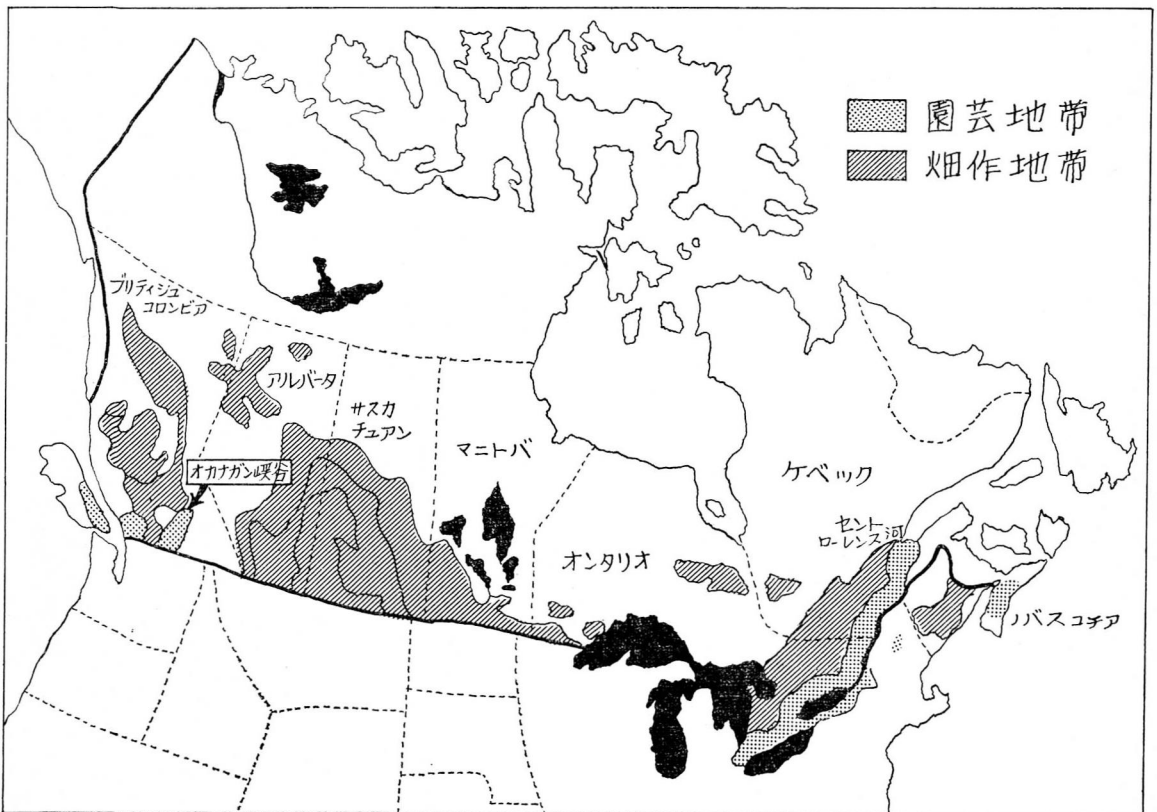
①

一 観光とフルーツで知られる オカナガン地帯

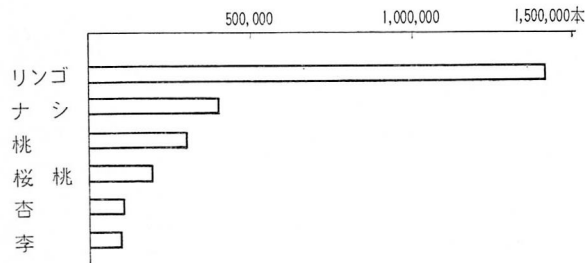
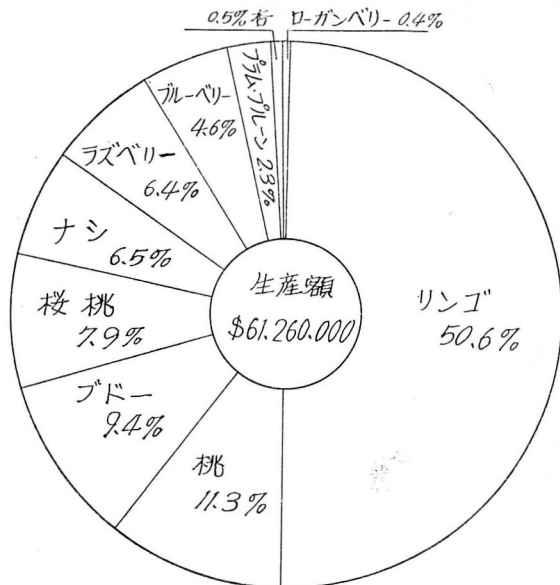
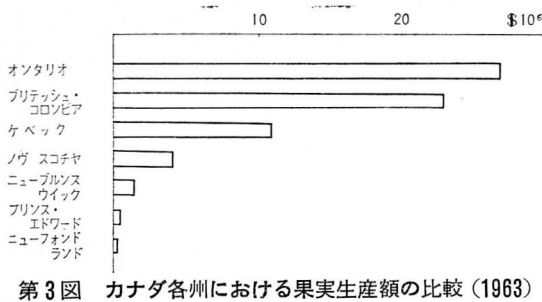
カナダの太平洋岸最大の港都バンクーバーから東へ四〇〇キロ入ったところにオカナガン湖という南北に細長い大きな湖がある。この湖は海拔約五〇〇呎、幅は狭いが長さは一〇〇キロ以上もあり、湖畔にペンテイクトン、サマーランド、ケロナ、バーノンなどの風光明媚な小都市がある。また近くにはカラマルカ湖、スカハ湖、オソヨース湖などの美しい湖があり、これらを含んだ一帯をオカナガン峡谷と呼んでいる。この地帯はカナダ西部の代表的観光地として知られ、夏はカナダは勿論、米国各地からも観光客が集まって賑わうところであるが、カナダ西部を代表する果樹地帯として

も有名で至るところにリンゴや桃、杏、桜桃などの果樹園がみられ、夏から秋にかけてはハイウェイのところどころに「新鮮なフルーツ売ります」と書いたドライバー相手の販売小屋が建つのも果樹の名産地らしい風景である。

私が一年間勤務したサマーランド国立研究所はオカナガン湖を一望に見渡せる丘陵地に位置し、果樹、加工、機械、昆虫、病理、土壌、栄養の各研究室では、それぞれの立場から果樹に関する研究を活発に行なっている。この研究所はカナダ農務省に属しているが、ブリティッシュ・コロンビア州農務部や、指導所、生産者組合などとも密接な連絡をとって研究を進めており、優良苗木の生産のためにも協力するなど、直接、間接両面で果樹産業に貢献している。夏と



第1図 カナダの主な州と園芸地帯



第3図 カナダ各州における果実生産額の比較 (1963)

第2図 カナダにおける主要果樹とその生産額 (1963)

次に州別に果樹生産額を比較すると第三図のとおりで、西部唯一の

オカナガン峡谷における主要果樹の栽植本数 (1964)

もなれば各種の団体の見字が連日絶えないのは日本と同じ光景であるが、生産者が気軽に質問をもつて訪ねて来る姿もよく見かけ、その対応も実に親密でほほえましく感じた。

二 リンゴ・ナシ・モモが主要果樹

カナダの園芸地帯は第一図に示すようにはつきりと東部と西部に二分することが出来る。即ち、東部はノヴァスコチア、セントローレンス河流域および南部オンタリオであり、西部はブリテンコロンビア州である。これらの地帯で栽培されている果樹の主なもの第二図のとおりで、リンゴが全生産額の約五〇%を占め、桃、ブドウ、桜桃、ナシ、ラズベリー(木苺)、ブルーベリーなどがこれに次いでいる。

次に州別に果樹生産額を比較すると第三図のとおりで、西部唯一の

オカナガン峡谷における主要果樹の栽植本数 (1964)

オカナガン峡谷における主要果樹の栽植本数 (1964)

三 夏は連日快晴の乾燥地帯

「カナダの冬は寒くて大変だったでしよう」帰国した頃、会う人ごとに決まったようにこう問いかげられた。確かにカナダの冬は一般に長くて寒く、マイナス三〇度以下になることも珍しくないという。ところがロッキー山系より太平洋側に位置するオカナガン地帯は思いのほか暖かく、北海道で育った私にはかえって過ごしよい暖冬であった。第五図に示した月平均気温の比較でもわかるように、サマーランドの冬は青森、長野より暖かく、二月、三月の陽気は東京

にも匹敵する。公園に四本の日本桜があったが、これが四月一日に見事に満開となり、はるか日本の春をなつかしんだものだったが、第五図の気温をみてもうなずけることと思う。四月から五月にかけて街中が花に埋もれ甘ずっぱい香りが満ち溢れる。ドッグウッドの清純な白色、道端に咲き乱れるメイフラワーの淡いピンク、ライラックの淡紫色、たそがれに浮かぶスノーボールの白く可憐な花房、庭園を埋める色とりどりの草花。果樹園一杯に咲き揃う、杏、桃、ナシのリンゴの花も又オカナガンの見逃がすことの出来ない春の風景である(第一表参照)。

夏は、平均気温は青森に近いが、日中は強烈に暑い代り夜間は適当に涼しくなるので凌ぎよい夏であった。

秋は早く涼しくなると九、十月は札幌より二度程低くなる。しかし十一月は札幌と同じ位で十二月には札幌より暖かくなる。オカナガン地方は北緯五〇度に近く北海道よりはるかに北方に位置しているのに、このように冬に暖かいのは、太平洋の暖流の影響をうけているためで、太平洋岸のバンクーバー港などは冬でも雪を知らぬ程の暖かさである。しかしロッキーを越えて内陸に入ると気候は一変して厳寒の冬となる。また、大西洋側の東部果樹地帯に近い首都オタワの気温をみても夏は札幌と同じ程度の暖かさであるが、冬はかなり寒いことがわかる(第五図)。

日本と比較して大きな差が見られるのは降水量である。サマーランドは年間を通じて雨量が少なく、年降水量が二九一ミリしか

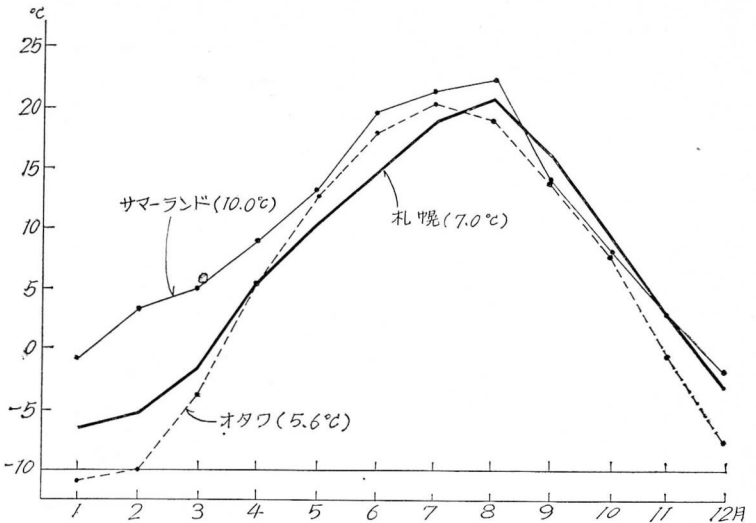
第1表 サマーランドにおける
果樹の開花期

果 樹	開 花 期
杏	4月17日—4月30日
桜 桃	4. 15 — 5. 10
桃	4. 15 — 5. 10
洋 梨	4. 20 — 5. 16
リ ン ゴ	4. 25 — 5. 20

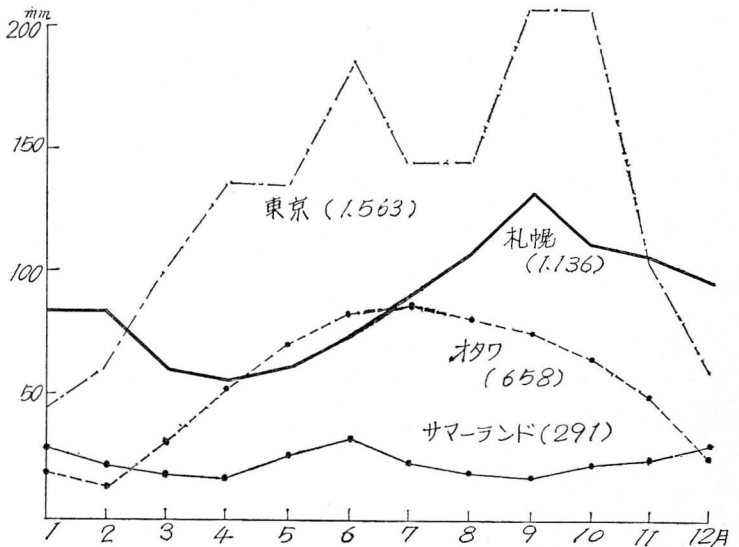
ない。札幌で一、二、三、六、七、東京では一、五、六、三、七であるのと比較すると如何に雨量が少ないかがよく分る(第六図)。従つてこの地方では農作物に対して灌水は絶対に必要な条件となる。東部のオタワでは冬に降雨が少ないが、七月を頂点とする山型をなし

興味あるのは第七図に示す如く、サマーランドの日照時間が冬に少なく、夏に極端に多いことである。この理由は一つには夏の間ほとんど快晴の日が続くことによるが、もう一つの要因は北緯五〇度という緯度に起因する夏の長日である。

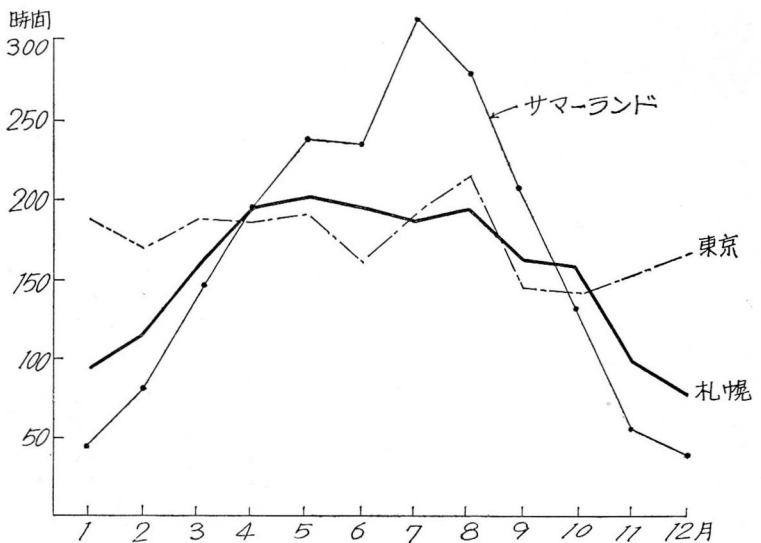
現在オカナガン地帯で広く栽培されているリンゴの品種についてみると第八図に示すような割合になっている。図の右は成木の栽植割合を示したもので、本数の多い順に記すと、レッドデリシャス(三七・二%)、旭(二五%)、スパータン(二〇・五%)、



第5図 月平均気温比較 ()内は年平均気温を示す

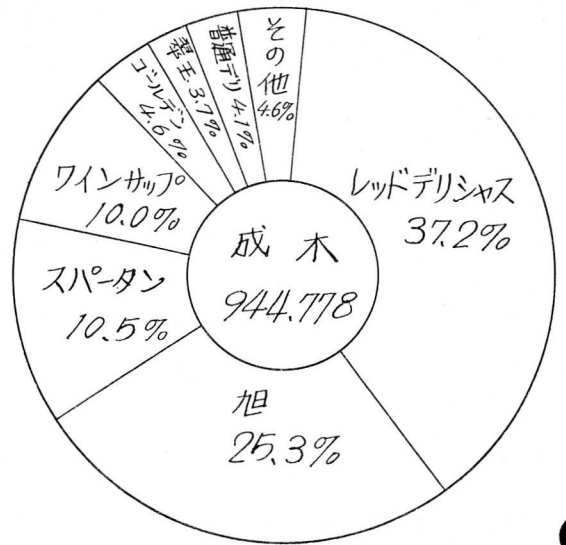
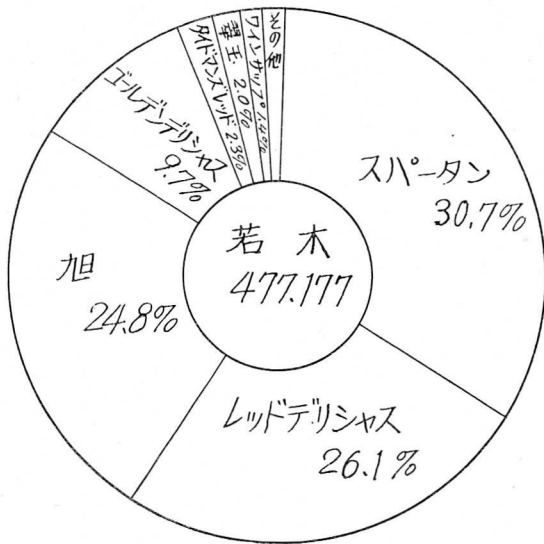


第6図 月別降水量の比較 ()内は年間降水量を示す

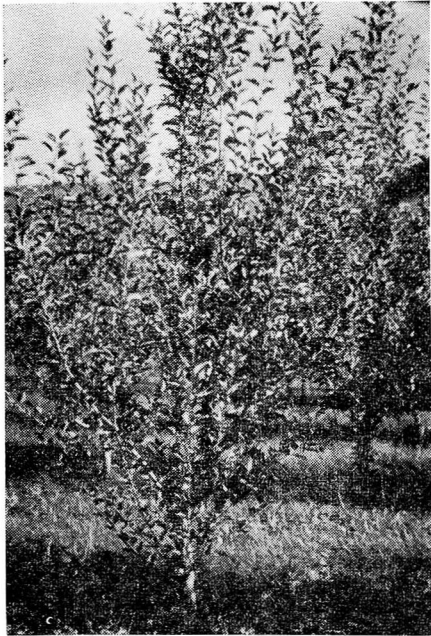


第7図 日照時間の比較

四 デリシャス・旭・スパータンがリンゴの主要品種



第8図 オカナガン地帯におけるリンゴの品種別栽培本数



サマーランド研究所のデリシャスの幼木

ワインナップ(二〇・〇%)、ゴールドデン・デリシャス、翠玉、普通デリシャス、その他となっている。

オカナガン湖から南に六〇キロ下ると米国ワシントン州に入り、米国における西部の果樹地帯が続いている。その中心地はウエナチー、ヤキマであるが、この地方の主要品種をみるとやはり、デリシャス系がトップで六〇%を占め、ゴールドデン、ワインナップ、翠玉、ローム等がこれに次いでいるが、旭、スパータンが殆ど見当たらないのは興味深い。

第八図の左側は五年生以下の若木の栽培本数を示したものであるが、成木で第三位のスパータンがトップになっていることは注目に値することでこの地方でスパータンが特に人気のあることが示されている。

これに続くレッドデリシャス、旭の順位は変わらないが、ワインナップは著しく減じ、ゴールドデン・デリシャスが可成り多くなっている。また新しい品種としてタイドマンズ・レッドが翠玉より上位になっているのも興味のあるところである。

次にこれら主要品種について簡単に説明してみよう。

(1) レッド・デリシャス

米国の西海岸同様最も広く栽培されていることは第八図のとおりであるが、いま新植されているのは、着色のよいいわゆるレッドデリシャス系だけで普通デリシャスは、若木には見当たらない。数多くあるレッド・デリシャス系の中でサマーランド研



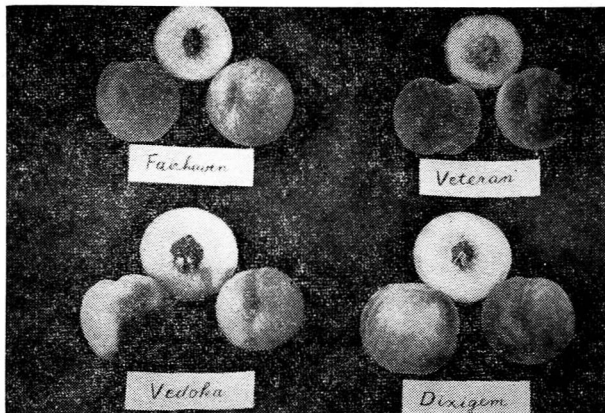
よく管理された旭の草生園

究所で推奨しているものは、ハロルド・レッド、スタークリムソン、インペリアルなどであった。

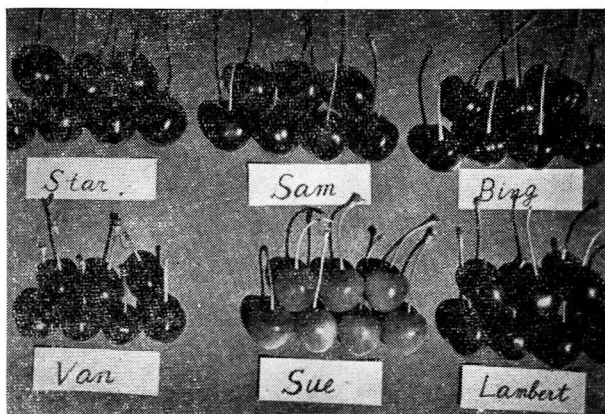
(2) 旭(サマーランド・レッド系)

オカナガン地帯のリンゴの老木は殆ど旭であることでも分るように、旭は長年この地方の中心品種であった。けれどもこれらの老木は着色の点であまり思わしくないものが殆どであった。サマーランド・レッド系は一九二三年にサマーランド研究所に栽培された一本の樹から増殖されたもので、鮮紅色で縞にならない点が特徴とされてお

カナダにおける桃の品種



カナダの桜桃の主要品種



り、現在新植されている旭は殆どがこの系統である。

(3) スパータン

サマーランド研究所で育成した傑作の一つといわれ、一九二六年に旭に翠玉を交配した実生である。近年急激に伸びつつあることは前述の通りで、世界各地でスタンダード品種としての真価が認められつつある。形状は旭と類似し、尻部にやや凹凸があり、着色は非常に良い。旭より三週間遅く収穫でき、旭とデリシャスの間を満たすものとして有望とされているが、貯蔵にも適し、旭、デリシャスと並んでこの地方で

はCA貯蔵にもかなり用いられている。

品質は優秀で筆者の経験では、収穫後から十分に満足できる味を有し、普通冷蔵のものを四月下旬まで毎日欠かさず食べていたが、実に美味しく他の品種に手が出ない程度であった。

東部旅行の際スパータンのことを聞いてみたら、東部では水分が不充分のため果実が十分に肥大しないので作っていないとの答えであった。

(4) ゴールデン・デリシャス

暖かい地域、特に峡谷の南部には最も適する品種とされ、若木では約一〇%栽植さ

れている。

(5) 翠玉

二〇〇年以上も古い品種であるが、今なお北アメリカの一部で栽培されている。

この品種はある限られた量だけは安定した市場性を有するので、この品種が十分に生育する地区には新植も推められている。

(6) タイドマンズ・レッド

旭と殆ど同じ色、香り、品質を有するが三週間早く熟すので早生旭と称し、早生種としては最も有望視され、若木が新植されつつあることは前述のとおりである。

五 その他の果樹の主要品種

リング以外の果樹について、この地方で栽培されている主要品種を次に簡単に述べよう。

◎ 洋梨

(1) パートレット

この品種は太平洋岸における主要品種で生果としても罐詰用としても人気がある。

八月下旬に熟し、摂氏零度の冷蔵で二月半貯蔵出来る。また少量ながら、CA貯蔵も商業的に試みられている。

(2) アンジュ

この地方に推奨できる晩生品種とされており、パートレッドより晩く、三月まで冷蔵貯蔵することが出来るが、筆者の聞いた範囲では生食用専門で加工には用いられていない。

◎ 桃

現在栽培されている主要品種はベデッテ、ペテラン、パリアント、レッドヘブン

の四品種で、古く作られたエルバータは急激に減少している。これから新植する品種として推奨されているものは、レッドヘブンの他、フェアヘブン、トリオゲンがあり、試験的に限定して推められているものに、ディクシーゲン、レッドトップ、ベドカ、レッドグローブ等がある。

◎ 桜桃

桜桃は最近かなり新植されたこと、生産量が増加しつつある理由から、授粉用の目的以外にはこれ以上新植することは推められていない。

栽培されている主要品種はランバート、ヴァン、ビング、サムの四品種でこの他、酸果桜桃のモントモレンシイが約四〇%あるが、これ以上増植することは市場の関係から保証されていない。

◎ 杏

現在主要品種となっているウェナチー・ムーアパークは過剰生産の状態であるが、罐詰用としては、ティルトンが要望されている。従ってティルトンのみが新植用として推奨されている。

◎ プラム

イタリアン・ブルーンとその早生系がこの地区に作られている唯一のもので、生食用にも罐詰用にも適している。

何れにせよ現在の生産量で充分なので、新植は推められていない。

(北大農学部 園芸第一教室助教・農博)